

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ほたて		
○保護者評価実施期間	2025年2月25日 ～ 2025年3月17日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35 (回答者数)	23
○従業者評価実施期間	2025年2月25日 ～ 2025年3月17日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月24日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々に合わせたプログラムを用意しており、集団と個のメリハリをつけた活動ができています。	全児童に個別のスケジュールを用意し、児童の相性から組み合わせや活動場所の配慮をすることで、安心して過ごせる。	児童の特性をより把握していき、活動内容の設定をすることで、能力の向上を図っていく。
2	町内会や外部団体との交流を図り、共生社会の実現を目指している。	積極的に外部団体との連携を図り、町内会活動への参加や過去には、独居老人の見守りを活動を町内会長と連携し行ってきた。また、生け花教室やプログラミング教室、飲食店とのコラボ行事、経営者団体と一緒に市のイベントでブースを設けて接客など、様々な活動をしてきた。毎年、就労事業所の餅つき行事にも参加させて頂いている。	活動のマンネリ化を防止し、積極的に外部交流を図っていく。
3	個々の得意な活動を活かし、世間に発信していく。	歌が好きな児童とは作詞作曲をし、ユーチューブで発信したり、市内でライブ活動に参加させて頂き、披露してきた。落語好きな子は、福祉のイベントで披露してきている。絵が得意な子は、クラウドファンディングで資金を募り、絵本を作成し、道の駅やAmazonでの販売、また市内図書館や学校へ寄贈してきた。テレビや新聞でも特集されている。	今後も、児童の強みを見付け、それを活かした活動を考えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の広さが、限られている為、児童と職員の人数によっては狭さを感じることがある。	児童の組み合わせによっては、接触しやすくなる場面が見られる。特性を踏まえた利用曜日の提案や、限られたスペースでどのように活かしていくか、常に創意工夫の意識を持ち業務にあたる。
2	スロープ設置や看護師配置ができていない為、重度の児童受け入れが難しい。	ニーズに合わせてスロープ設置や専門職採用に向けて取り組んでいく。様々な業界で人手不足と言われている中で、求人者に魅力的な事業所になるように努める。
3	学校との連携が取れている児童もいれば、そうではない児童もいる。	積極的に情報共有の連絡をしていく。